

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570112201	
法人名	株式会社 秋田介護支援センター	
事業所名	秋田ひまわりの家 グループホーム	
所在地	秋田県秋田市下北手桜字新桜谷地85番地	
自己評価作成日	平成25年9月1日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団	
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1	
訪問調査日	平成27年10月22日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの理念「私らしく、あなたらしく、想いを大切に」のもと、個々のできる事を最大限に発揮して、自分らしく生活していけるよう支援しております。
1階がデイサービス、2階がグループホームになっており、1階フロアの利用者様や、職員との交流、デイサービス慰問のボランティアが毎週2～5回あり、グループホームの入居者様も参加し楽しめるようになっております。屋外には、事業所で行っている畑もあり、季節に応じた花や野菜を楽しむことができます。
また、定期的に屋外へ出掛けて季節の変化を感じ、行事に参加して楽しみ気分転換できるようにしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は2階にあり、一階の宿泊型デイサービスでの多彩なボランティア活動を共有することで、日々の暮らしの中で気分転換や楽しみを持つことができている。また、2階にあることから災害対策への関心が高く、階段に独自のアイデアで非常用のスロープを取り付けたり、地域への還元も視野に入れた災害対策品の備蓄を予定しているなど、前向きに取り組んでいる。管理者や計画作成担当者は、「思いシート」を用い、本人・家族の気持ちを汲み取る努力をし、日々のケアの内容を職員皆の視点を持ち寄り共に考え、計画に反映させている。また、計画が入居者の立場に沿って、暮らしの中で一人ひとりのケアに実際に活かされているか、形式的になっていないかをチェックシートを用いて日々確認し、より良いケアの実践を目指し努力されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月スタッフミーティングで理念の確認を行っております。日々の出来事や様子を職員同士確認して、入居者様の内的な世界を理解できるよう努力しております。	職員会議などの場で日々確認されている「私らしく、あなたらしく、想いを大切に」の理念のもと、利用者が表現する言動の奥にある「想い」に気持ちを向け、より良いケアができるよう努力し実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	同一敷地内の利用者様との交流や町内会の行事参加、地域の敬老会に参加しております。更なる交流機会を模索しております。	開所より10年が経過し、地域のボランティアも数多く訪れるようになったり、町内会と一緒にクリーンアップにも参加したりと、地域の一員として根を張りつつある。高校や大学がすぐそばにあることから、今後も防災などを媒介にさらなる交流機会を増やそうとしている。	地域の中で存在感を増しつつあるが、防災の面でも地域貢献を考えているところでもあり、実際に地域の消防団や学校との繋がりを具体化し、防災訓練などを共に行う中でより地域の一員としての立場が強固なものになることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議を通じ、地域の代表者へ制度や対応の説明を行い、理解を深めて頂いております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設での行事や、防災についての報告を行い、今後の施設運営の助言を頂いている。	会議には地域センター所長、民生委員、包括支援センター職員、家族代表らが参加し、事業所の状況や防災などについて様々な意見交換がなされている。その中でグループホームや認知症の方々への理解に関して話し合いが持たれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問点などがあれば連絡・訪問し、改善点を確認しております。	地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加し、事業所の活動内容について話し合いをし、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内の勉強会や、社外研修に参加して理解を深められるようにしております。スタッフミーティングや全体勉強会の際に、3つのロックについて確認しております。	社内勉強会や社外研修参加職員による伝達研修などで理解を深め、現場のケアに活かしている。薬の影響などについても月に一回の往診時や週一回の訪問看護の際に相談している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内の勉強会や社外研修に参加をして理解を深め、日頃言葉の抑制がないか確認しております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は外部研修を予定しております。後見人との関わりは今でもあり、制度の必要性を普段から実感している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書・運営規程などをもとに説明し理解を得ている。入居者様やご家族様に対し、疑問点がないか確認して納得して頂けるよう説明しております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に御意見箱を設置しております。電話や御家族様来所時、ご本人様より意見を確認しております。今年度の4月に秋田ひまわりの家新聞を通じて、アンケートを実施してサービス利用についての意見をお伺いしております。	意見箱に意見が寄せられることは少なく、アンケートを実施し、利用者・家族からの意見・要望を聞く取り組みを行っている。アンケートには全対象者から返答があり、寄せられた要望や意見と、それに対する対応もアンケート結果としてお知らせしている。その中で対応できることには迅速に取り組み、実現が難しいことには丁寧にその理由を述べ、理解を求めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフミーティングや管理者会議・全体会議を行っております。運営に関して意見を確認する機会を設けております。	スタッフミーティングや代表者も参加する管理者会議などで意見の確認が行われている。管理者は、現場の経験もあり、それを踏まえて、職員の意見を聞くことができ、現場のケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全体会議や管理者会議を開催し、要望や働きやすい環境を確認できる機会を設けております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に1回以上は各職員が外部研修へ参加して、スキルアップ出来るようにしております。新人には指導役を決め、介護方法や入居者様の思い、個性を理解できるよう指導しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	秋田市認知症グループホーム連絡会に加入しており、秋田市のグループホームとの情報交換や勉強会等に参加しております。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前時点では御家族様の困っていることや不安などを事前に確認できるよう、事前訪問や電話確認しております。また御本人様が利用している施設やケアマネジャーにも同様に確認をしまして、初期の関係作りに努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	介護状況や御本人様との関係性、経済状況をお伺いし、今後の生活を御家族様と一緒に考え信頼関係を築けるように努めております。入居後は、電話や挨拶文、写真を利用して生活状況を報告しております。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で御本人様の個々に合った役割を持てるように、掃除や買物、食器拭き、洗濯たたみなど、様々なことを一緒に行い、共に過ごしております。また、ゆっくりと談話する時間を持っています。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時の情報交換や毎月写真を掲載した手紙を送付して、近況報告しております。また、御家族と外食や法事などで、ご希望に合わせて自由に外出して頂き、御家族との時間を共有できるようにしております。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室に家族の方と行き、毛染めを行っている方もおります。馴染みのある場所へのお祭り見学も行っております。 御本人様・御家族様の意向に沿って、御家族様と協力して関係性を保てるようにしております。	できる限りこれまでのなじみの関係性を保てるよう関わっているが、入居して長い時間が経ち、ホームの中でなじみの関係や心落ち着く場所ができていない利用者も多く、それも大切に考えている。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性を考慮して、一緒にできる家事作業の支援や入居者様皆様が参加できるようなレクリエーションを考え、実施して、孤立しないように注意しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も情報提供や手続き等の支援を気軽に相談してもらいたい事をお伝えしております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御家族様からの意見や普段の生活状況・表情・会話など、意見を取り入れ、困難な方でも同様の事を踏まえ、望む暮らしに近づけるように努めております。	本人の生活史を踏まえ、これまで果たしてきた畑作業や調理などの役割を大事に考え、ケアの中に取り入れている。訪問時にも調理の下ごしらえに生き生きと取り組む入居者の姿が見られた。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に生活史への記入をして頂いてもらっています。御本人様や御家族様からも聞き取り把握できるようにしております。また介護サービス利用があった方は、その関係者からも生活状況を確認して経過を確認します。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りや記録を元に、その日の精神、身体状況を確認しております。毎月スタッフミーティングを行い、有する力の把握等の現状を話し合い、共有し各職員で対応の差異が生じないよう注意を行っております。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護サービス計画書の原案を用いて、本人・家族と話し合いを行っている。また、提携している医療関係者や職員と随時話し合いを行い、介護サービス計画書に反映して作成している。	「想いシート」を活用し、本人・家族の気持ちを確認し計画に反映させている。また、これまで画一的になりがちだったプランについても、本人本位で考えるために工夫されたシートを用いることにより、様々な気づきが得られるようになった。計画は作成担当者が原案を作り、職員全員で確認共有されている。また、プランに織り込まれたケアが具体的に提供されたかをチェック表を用い日々必ず確認し、プランが形骸化しないよう努めている。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の様子やケアの実践を記録し、申し送りやスタッフミーティングで気づきやケアの工夫、対応の確認をするようにしております。御本人様の状態に変化が生じた際には介護計画の見直しを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会との清掃活動や美容室・スーパーへの訪問、地区敬老会に参加しております。 同敷地内のデイサービスに来ているボランティアとの交流機会を持ち、楽しめるようにしております。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のご希望を確認し、かかりつけ医との関係を継続されるよう確認しております。しかし、現在は協力医院の往診を全ての方が希望されております。また必要な時に歯科医の往診もあります。	日常の健康管理は協力医院のもとに行われている。外部評価当日にも往診があり、医師が利用者に声をかけながら状況の確認がなされていた。緊急時にはあらかじめ家族に確認した医療機関に受診する体制となっている。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院との契約により、週1回の訪問看護と協力し、体調管理を行っております。日々のバイタルサインや食量・体重・排泄状態などを確認して、主治医との連携を実施しております。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後、主治医・看護師・相談室や御家族様との電話連絡や面会を行い病状について共有し、退院の目処がいつになるか確認して、早期の退院ができるようにしております。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	段階的に将来像を話し合い、終末期における対応を確認するようにしております。協力病院の医師へもグループホームの方針を伝え、必要に応じ話し合いを重ね協力して頂けるよう依頼しております。	現在は看取りの経験はないが、今後は病院・医師とも協力し、行う方向で考えている。契約時に重度化した場合の指針を書面で示し、状況に応じて話し合いをしている。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の指導のもと、心肺蘇生法や緊急時の対応を職員全員が受講できるようにしております。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち会いのもと避難訓練や夜間想定避難訓練では、同じ敷地内の生活支援ハウスと共同で避難体制を確認しております。 運営推進会議を通し、避難誘導の仕方などを話し合い、マニュアルを作成し常に更新しております。	防災に対する意識は高く、各種訓練を行いマニュアルも常に更新し、写真を入れたもので視覚的に理解できるよう工夫されている。また、実際の想定訓練の様子を動画で示し、緊急時の職員の動きをイメージできるよう取り組まれている。訪問時、動画の視聴を行い、その説得性の高さを確認するとともに、事業所が2階にあるということに対する、備えの重要性も実感した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の空間が保てるように、御本人様が一人で過ごしたい時や共に一緒に過ごす時間を持つことが出来るよう、職員同士確認して配慮しております。排泄時の声掛けでは、羞恥心や周囲への配慮を行い、さり気なく移動できるようにしております。	一人ひとりの過ごしたい場所や、なじんだ空間を大事に考えている。現在は入居者が全員女性ということもあってか、ホールで皆と一緒に過ごす方が殆どであった。排泄確認などの声掛けもできるだけ周囲へ配慮し、プライバシーを損ねないよう努力されている。また、お化粧の支援などもなされ、その方らしさを尊重している様子を垣間見ることができた。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人様のご要望がありましたら、意向に添えられるようにしております。日々の会話・仕草から、表現が困難な方であっても声掛けを行い確認しております。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御本人様希望のもと、御家族様や関係者と共同して希望に添えるように支援しております。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人様の好きな衣類や傾向を踏まえ、オシャレを楽しめるようにしております。また化粧やマニキュアを好まれる方には、声掛けしてお手伝いしております。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬な季節のものを取り入れ、入居者様と一緒に買物や調理、食器拭き、片付けなどを行うようにしております。また、外食に出掛け、気分転換が出来るようにしております。	買い物は、体調などを考慮し行ける方と出かけている。調理や片づけなどには積極的に参加する方もおり、職員が教えてもらう役割になることで、利用者の生き甲斐に繋がっている。また、外食を楽しむ機会もあつたり、畑の収穫物が食卓にのったりすることもあり、日々の食事に彩を与えている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や1日の水分量の確認、また排尿状態・気温を踏まえ水分量が不足していないか注意しております。御本人様の咀嚼や嚥下状態に合わせて食事形態を変え、自力摂取できるようにしております。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前の口腔体操や食後の歯磨きが出来よう、声掛けや介助を継続的に行っています。また水分にトロミを使用している方で、口腔ケアのうがいでもせ込んだり、上手くうがいが出来ないために、歯磨きティッシュで対応している方もおります。また、定期的ですが歯科往診にて義歯の調整や口腔状態について確認することもあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄ができるよう間隔や時間を見て声かけや仕草から失敗しないように努めております。出来るだけオムツの使用を減らし、自立に向けて取り組んでおります。	チェック表を用いてリズムを把握するとともに、10時と15時には寒天を利用した副食を摂って頂き、排便がスムーズに行われるよう配慮されている。適切な声掛けや誘導でトイレで排泄できる方も多いため、職員で状況を共有し支援に取り組んでいる。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、乳製品の摂取や水分摂取量の確認、体操や散歩などの運動を取り入れ予防しております。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調や意欲、バイタルサイン、予定を確認し、特に入浴日や時間は決めず御本人の意思決定のもと入浴することが出来るようにしております。	本人本位で支援している。一度断られても、時間を空けて声をかけたり、さりげなく入浴準備を一緒に行ったりと工夫し、少なくとも週に2～3回は入浴できるように支援している。体調や温度・時間にも配慮し安全面でも気を付けている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動機会を持って頂けるよう日課を行い、生活リズムを持てるようにしております。御本人様の生活スペースや就寝時間を確認して、ゆっくりと眠れるようにしております。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、訪問看護と連携し、薬の効果や副作用について確認しております。誤薬が無いよう、複数の職員で服薬内容をチェックし確実に服薬できるようにしております。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御本人様の生活歴や個性を踏まえ、役割としての買物・掃除・洗濯たみ・調理・片付けなどを行っております。また化粧やおしゃれを楽しめるように、声かけやお手伝いをしております。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	御本人様の希望に合わせて、買物や美容室に出かける方や季節行事を企画し皆で外出して楽しむ機会を持てるようにしております。御家族様と外出し、外食や美容室へ行かれる方もいらっしゃいます。	本人の希望に沿って、買い物や外食など外出支援がなされている。また、家族の協力もあり、なじみの美容院を利用している方もいる。家族向けの新聞には、季節感を味わえる場所へのドライブや地域の祭りへ出かけたことなどが行事報告として掲載され、日々の生活にアクセントをつけていることが確認できる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御本人様の要望に合わせて、必要なものがあれば一緒に買物に行き、商品選びや支払い支援を行っております。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人様の要望に合わせて、電話の希望があれば御家族様と会話ができるようにしております。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	急な大きな音に注意し、混乱が無いように支援しております。季節行事に合わせて、室内の展示物を変更して季節の変化が感じられるように努めております。室温・湿度に注意し、各居室・共用部分に温度計・湿度計を設置し加湿器やエアコン等を利用して室内環境を調節しております。	天窗からの日差しが、柔らかく廊下全体を照らし、共用スペースには、不安や不快な感覚を呼び起こすものはなく、職員も穏やかな口調で利用者の活動を見守っていた。季節に応じ室内環境を整えられるよう加湿器などの準備もされている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にソファや長椅子を設置し気の合う入居者様同士が、ゆっくりと談話出来るようにしております。個々の居室は私的な空間として、ゆっくりと過ごせるよう必要以上の訪問に注意しております。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や衣類・食器・家族の写真などを居室に持込み、馴染みのあるものを持ってきて頂き回想出来るようにしております。	居室には、なじみの物を自由に持ち込むことができ、それぞれが自分の居場所として安心できるよう工夫している。使い込まれたタンスなど大型の家具を持ち込んでいる方もおり、入居前の生活を想像することができた。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各共用部分のトイレや風呂場などに表示をし、視覚で確認し御自身で移動できるようにしております。また居室やホール、階段・トイレと手すりを設置し転倒への予防や段差の無いように確認しております。		